

令和2年度 全県教育課程説明会 「社会科」部会（小学校）

1 社会科の改訂のポイント

旧学習指導要領 平成20年告示

【教科の目標】 社会生活についての理解を図り、わが国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

<改訂の要点>

- 第3学年及び第4学年の目標と内容を再整理し「教科用図書 地図（地図帳）」を第3学年から配付。
- 現代的な諸課題を踏まえた学習の充実
- 中学校での学習内容との関連を考慮し、3つの枠組みに整理
 - ①地理的環境と人々の生活 ②歴史と人々の生活 ③現代社会の仕組みや働きと人々の生活

小学校社会科の目標と「社会的な見方・考え方」 「教育課程編成の指針」（◆P. 19～22）

小学校社会科の目標 「改訂（平成29年告示）（◆P. 19）」

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

社会的な見方・考え方

社会的事象を位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に着目して（視点）捉え、比較・分類したり総合したり地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること（方法）

資質・能力	【知識及び技能】	【思考力・判断力・表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
資質・能力の目標	地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会にみられる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。 ※「多角的」…「複数の立場や意見を踏まえて考えること」。中学校社会科では「多面的・多角的に考察する」としている。	社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

2 学習評価について （参考資料：『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料）

(1) 「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の観点ごとのポイント

学習指導要領の内容に基づき、「児童・生徒が学習中にどのような姿を見せたら目標が実現したといえるか」を想定し、児童・生徒の実態・学習活動・扱う教材を検討した上で、評価規準を作成する（★P. 31～32）			
観点	【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
観点ごとの評価規準のポイント	「(知識) …理解している」かどうか、「(技能) …調べたりして…まとめている」かどうかの学習状況を表し、評価規準を作成。 ※「～調べ、～まとめ、～理解している」と評価規準を設定する場合もある。	「…着目して、…を捉え、…考え、…表現している」かどうかの学習状況を表し、評価規準を作成。	「主体的に問題解決しようとしている」かどうか、「よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしている」かどうかの学習状況を表し、評価規準を作成。

評価方法	ノートやワークシート、学習カードへの記述内容、白地図 ※学習指導要領 P. 152～153「社会的事象等について調べまとめる技能」参照	発言内容やノートの記述内容、論述やレポートの作成、発表、グループ等による話し合いで評価。記録用のポートフォリオなどを活用	発言内容、ノートの記述内容や学習計画表、児童による自己評価や相互評価
------	--	--	------------------------------------

※ 小学校社会科について、学習指導要領に示された「内容のまとめ」は、複数の内容に分かれ、その内容ごとに単元を構成するものがほとんどである。単元ごとに単元構成や学習過程に沿った具体的な目標及び評価規準の設定も指導と評価の一体化を促す一つの工夫となる。

※ 平成 29 年改訂をふまえた学習評価については第 1 編を参照 (★P. 3～11)

※ 地域の実態を生かした学習計画・指導計画 (学習指導要領解説 P. 141)

(2) 「単元ごとの学習評価」について (事例)

3つの観点に整理された、単元の評価規準作成のポイント(★P. 36～37)

情報を集める力、読み取る力、まとめる力

【知識・技能】

- ① 調べて、必要な情報を集め、読み取り、社会的事象の様子に対して具体的に理解しているか
- ② 調べたことを文などにまとめ、社会的事象の特色や意味などを理解しているか

社会的事象を比較・関連付け、選択・判断する力

【思考・判断・表現】

- ① 社会的事象に着目して、問いを見だし、社会的事象の様子について考え表現しているか
- ② 比較・関連付け、総合などして社会的事象の特色や意味を考えたり、学習したことを基に社会への関わり方を選択・判断したりして、適切に表現しているか

※ 単元の学習活動に応じて適切に文言を選びながら評価規準を設定することが大切

学習を自分で調整しようとする力

【主体的に学習に取り組む態度】

- ① 社会的事象について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究・解決しようとしているか
- ② よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしているか
※ 単元によっては、「選択・判断する場面」や「発展について考える場面」が設定されない場合もあることに留意する。学習活動に応じて評価規準設定の有無を含めて工夫することが大切

※ 評価規準作成のポイントのもと、学習指導要領の内容に関する記載事項、内容の取扱い、観点の趣旨を踏まえ、学習指導要領解説の記載事項を参考に、内容についてより具体的に示すよう作成する。

※ 「内容のまとめ」としての単元評価規準作成例

- ・第 4 学年 内容 (2) 「人々の健康や生活環境を支える事業」・第 6 学年 内容 (2) 「我が国の歴史」
- (3) 事例概要

学年	単元名と評価の工夫	関連する観点
第 4 学年	「廃棄物を処理する事業」(★P. 44～51) ① 効果的・効率的な評価のための工夫	知識・技能
第 3 学年	「火災から人々の安全を守る」 「事故や事件から人々の安全を守る」(★P. 52～61) ① 「内容のまとめ」を意識して指導計画を立てるための工夫 ② 児童の学習状況を的確に把握し、指導に生かす工夫	主体的に学習に取り組む態度
第 5 学年	「米づくりのさかんな地域」(★P. 62～69) ① 評価したことをその後の指導に生かす工夫 ② 「まとめる」段階を評価したことを記録に残す工夫	思考・判断・表現
第 6 学年	「天皇中心の国づくり」「今に伝わる室町文化」「日本国憲法の役割と我が国の政治の動き」「わたしたちの暮らしを支える政治」「世界の人々とともに生きる」「日本とつながりの深い国々」 ○評価資料と評価の在り方についての事例 (★P. 70～75)	【評価方法】

【参考資料】

- 《文部科学省 国立教育政策研究所》 ・『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料」★
- 《神奈川県教育委員会》 ・「教育課程編成の指針」◆ ・「カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価」
・「学習評価を踏まえた授業づくりの道すじ」